



メディアプロデュースコース 多和田恵さん

都市環境デザインコース 都築学さん

現代社会研究科長 藤瀬浩司教授



地域社会コース 松井治樹さん

国際社会コース 鄧英さん

都市環境デザインコース主任 吉田邦彦教授

現代社会学研究科(博士前期課程・博士後期課程) 現代社会専攻

地域社会コース

福祉、環境問題を始め、地域の文化、産業構造、交通システム、地域計画など地域社会の問題の現状と課題を、中部地域を中心に、他地域と比較しつつ多角的に分析・評価。地域の特性を生かし、独自性を発揮できる地域社会を創造するための手法・方策を教育・研究しています。

国際社会コース

現代国際社会の諸問題を政治・経済・教育・文化の幅広い側面から解析し、社会発展の方向とそこでの日本の役割を教育研究します。理論的、歴史的研究に加え、英語文献による国際情勢の分析能力の強化も重視し、国際的に活躍できる人材の育成に努めます。

メディアプロデュースコース

メディアに集積される情報の分析と解説により、現代社会を総合的にとらえます。また、情報手段としてのメディアの構造を知り、情報を発信するための知識と技能を養成し、実際にメディアにのせるソフトの制作を試みます。

都市環境デザインコース

「都市」あるいは都市を構成している「建築」を対象として、その計画・設計・維持・保全についての理論と応用の修得を目指します。都市または建築を工学的な視点で教育・研究するだけでなく、それらを現代社会の重要な構成要素と考え、様々な観点から教育・研究を行っています。

「現代社会」を、 広い視野と高い専門性で 研究教育する

現代社会研究科は、急激に変化しつつある現代社会を地域、国際、メディア、都市環境という4つの切り口から多角的に研究教育しています。現在、先端知識を習得した人材を育成する大学院へのニーズが高まっています。現代社会研究科は、先進的な研究者と高度な専門知識を持つ職業人の育成を目的に、全国的にもユニークなカリキュラムを採用入れるなど、新しい取り組みを続けています。現代社会研究科の魅力について、研究科長と教授、4人の院生に語ってもらいました。

4分野が交流しやすい
コース制のメリット

藤瀬研究科長 現在、全国では約22万人が大学院で学んでいます。大学院生が増加した理由には、まず社会的なニーズの変化が挙げられるでしょう。企業がIT技術の進歩、不況の影響などで、専門性を備えた即戦力のある人材を求めようになつてきました。独立して問題を解決していく能力を持った人材を社会が要求しているといつていいです。次に、学部教育に物足りない学生が、さらに高度で充実した勉強に取り組みたいと大学院に進学するようになりました。

吉田教授 現代社会研究科の一番大きな特徴は、4つのコースを設けていることです。たとえば国際社会コースでは、国際的な問題について教育、経済、歴史、文化的な視点など、様々な分野から多角的に研究できるようになっています。地域社会コースなら地域文化論、地域開発論などの地域問題に、社会学、民俗学など各専門の先生がそれぞれ焦点を当てていきます。

藤瀬研究科長 中でもメディアプロデュースコースと都市環境デザインコースは全国的にも非常にユニークだと思えます。地域社会コースと国際社会コースは伝統的な学問分野ではありませんが、既存の大学院のように経済学研究科、法学研究科などという特定の学問分野に固まっています。

学部と同じく専攻で分けると各分野の交流ができなくなるからで、そのあたりの垣根が低いといつことも特徴ですね。

**自分の学びたいことが
見つかる現代社会研究科**

藤瀬研究科長 学部も研究科も広い視野と高い専門性」を謳い文句にしていますが、当初から各コースが互いに様々な知識を交流し合える、自由に動ける状況を作ることが狙いでした。他のコースの話も聞いて、自分が知らなかった調査や研究の仕方などを習得することもあり、非常にいい効果があります。

松井 垣根が低いといつことでは、

ば、ぼくは大学では当初、メディアを目的に現代社会学部に入学しましたが、半年たつて自分がコンピュータの進化に追いつけないことに気づき、脱落しました。次にこれからは国際化だと国際社会コースを目指したのですが、しばらくして留学生の方と話す機会があり、自分が日本のことを全然理解していないことにショックを受けて、地域社会にたどり着きました。こうしてコースを渡り歩いたのですが、現代社会という大きな枠組みの学部、研究科にいてよかったと思えます。自分の学びたいことが必ず見つかる素晴らしい研究科だと思います。

鄧 私は主人が日本人で、3年前に初めて中国から日本に来ました。日

本で一番驚いたのが、少年の非行問題です。中国は現在、急激に発展していますが、いずれ中国でも非行問題が多発するかもしれない。そうならないように、日本の社会を勉強したら中国の役に立つかもしれないと思いい、教育を研究テーマに選びました。

都築 ぼくは学部の時、国際社会コースだったのですが、建築系の科目も履修していて、非常に面白くて興味を持ちました。そこでこちらの方面で研究したいといつ気持ちになり、大学院に進学しました。

多和田 私はずっとメディアで来ましたが、学部の時はメディアの授業が取りたくても、なかなか取れませんでした。ゆっくり時間をかけて学んだり制作したかったので大学院に進学しましたが、現在はどつぶりメディアに浸かっているという感じです。今は卒業修士制作でリラクゼーション環境ビデオを制作していますが、制作のための設備が整っているのも満足しています。

松井 ぼくは現在、母校の高校で社会科の非常勤講師をしています。だから高校へ行くとき先生と呼ばれて、大学に来ると学生。不思議な気分です。教えるのも研究するのも好きで、大学院で学んだことを高校の授業に活用できる、身に付いたといつことを再確認できるのがいいですね。

藤瀬研究科長 カリキュラムの授業時間は2限目から7限目。昼間働いている社会人も、6、7時限目を履修すれば2年間で修士課程を修了できるようにになっています。

吉田教授 作品が論文の代わりになるといつのも、現代社会研究科の特徴ですね。コースによっては設計でも修士論文の代わりにります。

院生の30%が社会人と留学生

吉田教授 現代社会研究科には現在58人の院生がいます。そのうち社会人入試で12人、外国人留学生は6人と、全体の3割が社会人と留学生



都市環境デザインコース1年
都築学(つづき・まなぶ さん)
研究テーマ「経路探索からみた地下都市空間の分析」
将来の夢・希望 都市環境デザインの分野にこだわらず、大学院で培った調査研究の技術や態度を社会で生かしたい。

国際社会コース2年
鄧英(でん・えい さん)

研究テーマ「中国の基礎教育におけるカリキュラムの政策及び改革に関する考察 - 1949年以後を中心として」
将来の夢・希望 NGO等に参加し、国際社会に貢献したい。



現代社会研究科長
国際社会コース教授
藤瀬浩司(ふじせ・ひろし)

東京大学大学院社会科学部研究科理論
経済学・経済史専攻博士課程
名古屋大学名誉教授、経済学博士



都市環境デザインコース主任教授
吉田邦彦(よしだ・くにひこ)

東京大学工学部建築学科
元NTT建築部



地域社会コース2年
松井治樹(まつい・はるき さん)

研究テーマ「歴史的文化遺産の継承と地域文化の創世に関する研究 - 歴史的文化遺産を活かした新しいまちづくりを事例として -」
将来の夢・希望 将来的には研究地域を一つに絞り、その地域について研究し、その地域のまちづくりに役立つような職種に就きたいと考えています。



メディアプロデュースコース2年
多和田恵(たわだ・めぐみ さん)

研究テーマ「リラクゼーション環境ビデオ」(絵画の技法をもとに構成)
将来の夢・希望 4月からケーブルテレビ局に入社します。当面の目標として、地域の方々には喜ばれる番組を制作すること。デジタル放送も始まり大きな変化を迎える業界ですが、常に新しいことに目を向け、いろいろな情報をキャッチできる柔軟な姿勢でいたいと思います。



現代社会研究科 ならではの 全国に誇れるユニークな科目

座談会シリーズ6
21世紀・大学の明日
大学院を語る2
現代社会研究科

教育の実践性と プロジェクト科目

藤瀬研究科長 現代社会研究科の特徴の一つに、実践的な教育が挙げられます。たとえばプロジェクト科目は学生と教員がテーマに基づいて一緒に研究するというのが、コースに特有の方法は異なりますが、かなりの成果を上げています。また教員スタッフには社会人出身者が多く、現場の知識を教えていただけるのも魅力です。

吉田教授 大学も大学院もこれまでは、学生は教えられて学ぶ、教員は教えるという立場でしたが、最近世界的に見てティーチングからラーニング、教えるから自分で学ぶという風潮が変わってきています。プロジェクト科目や地域社会コースのフィールドワークなどは、まさに自分で発見して学

ぶというもので、夏休みに集中講義で3日か4日間、朝から晩までやりま

うというもので、夏休みに集中講義で3日か4日間、朝から晩までやりま

うというもので、夏休みに集中講義で3日か4日間、朝から晩までやりま

うというもので、夏休みに集中講義で3日か4日間、朝から晩までやりま

うというもので、夏休みに集中講義で3日か4日間、朝から晩までやりま

うというもので、夏休みに集中講義で3日か4日間、朝から晩までやりま

うというもので、夏休みに集中講義で3日か4日間、朝から晩までやりま

た院生全員が取り組んで提案したことがありますが、これなどは単に集まって教員の話や聞くというだけではいままに実践的な教育と言えるでしょう。

アジア諸国の諸事情を勉強 海外実地研修

藤瀬研究科長 平成12年度からは全コース共通で海外実地研修というカリキュラムを実施しています。アジア諸国の企業や大学を訪問するなどして、海外の諸事情を様々なレポートを通じて勉強するというものです。

吉田教授 現地に滞在するのは一週間程度ですが、事前研修、現地での聞き取り調査や資料収集、帰国して報告と、3段階で行っています。

学部生に講義を開放 開放科目

吉田教授 今年4月から取り組む新しい試みとしては、開放科目があります。現代社会研究科の講義を、現代社会学部の4年生の希望者に開放するというものです。学生にとって大学院というものが、ある程度理解できると思います。

藤瀬研究科長 学科の講義はあくまでも院生のためのものなので、開放するのは各コース1、2科目程度、計6科目、限定的には夜になります。

吉田教授 聴講したからといって単位にはなりません。その学生がそのまま大学院に進んだ場合には単位として認定します。これは、別の大学院で本学大学院に相当する科目を履修した場合に10単位まで認めるシステムがあるため、学部の学生であっても同じ形にしようという事です。現代社会学部から現代社会研究科への継続性を持ってもらえるのではないのでしょうか。

藤瀬研究科長 現在、全国では学部卒業者の約11%が大学院に進学しています。ところが淑徳大学の場合は3%程度とかなり少ない。初めにお話したように、現在は社会的に大学院へのニーズが非常に高まっており、それに応えられる教育研究を現代社会研究科は行っています。学部卒業後の選択肢に是非、大学院への進学を入れてほしいですね。

